



たはらトピックス

市の財政状況をわかりやすく 平成27年度の財政書類を公表

市の財政状況について、一年間の現金収支に年度末の資産や負債の状況などを加えて、企業の決算に準じた形で公表しています。普通会計の財務書類4表を用いて説明します。

▼財政課 ☎ 27・8601

貸借対照表 (H28・3・31現在)



左側(資産の部)には市が所有する資産の種類と金額を、右側(負債の部・純資産の部)はその資産を取得したときの財源の出所を示しています。

■資産の部

2,346億円
(前年度比△34億円)

流動資産

現金・預金など

41億円

(前年度比+4億円)

基金・出資金など

177億円

(前年度比+3億円)

公共資産

道路や施設など

2,128億円

(前年度比△41億円)

■負債の部

市債など将来世代の負担額

303億円

(前年度比△23億円)

■純資産の部

市税など今までの世代の負担額

2,043億円

(前年度比△11億円)

①平成26年度末 純資産残高	2,054 億円
②1年間の変動	△11 億円
内 ③純経常行政コスト	△242 億円
内 ④税金・国庫支出金など	276 億円
内 ⑤インフラ資産の減価償却費・資産評価差額など	△45 億円
⑥平成27年度末 純資産残高 (①+②)	2,043 億円

貸借対照表の「純資産の部」の一年間の変動を示しています。

純資産変動計算書
(H27・4・1～H28・3・31)

①経常行政コスト	257 億円
内 ②人にかかるコスト 人件費など	59 億円
内 ③物にかかるコスト 消耗品・減価償却費など	96 億円
内 ④移転支的コスト 社会保障費・補助金など	99 億円
内 ⑤その他のコスト 支払い利息など	3 億円
⑥経常収益(使用料・分担金など)	15 億円
⑦純経常行政コスト(①-⑥)	242 億円

行政サービスの提供にかかった消費的な支出の内訳を示しています。

行政コスト計算書
(H27・4・1～H28・3・31)

分析

財務書類から分かること (前年度比)

- ①純資産比率87.1%(+0.8%)
総資産のうち、負債を除いた純資産の割合です。市債残高の減少などにより、前年度よりも上昇しました。
- ②1人当たり市債残高 33.4万円 (△2.6万円)
返済が進み、市債残高は前年度よりも減少しました。

資金収支計算書
(H27・4・1～H28・3・31)

現金の流れを示し、どのような活動に資金を使用したかを表しています。

③平成26年度末 資金残高	21 億円
④1年間の変動	+6 億円
内 ⑤経常的収支 市税や物件費など	68 億円
内 ⑥資本的収支 建設費・基金繰入金など	△38 億円
内 ⑦財務的収支 借入金・償還金など	△24 億円
⑧平成27年度末 資金残高 (③+④)	27 億円